

技術者への憧れ

静岡県立伊豆総合高等学校 工業科（電気電子類型）3年
保田 琉成

「電気技術者になりたい」この思いは高校で電気について学ぶうちにどんどん強くなっていきました。しかし同時に「自分はなぜ電気技術者になりたいのか」という疑問も胸の内にもありました。実習を何度もこなし、勉強して電気工事士の資格を取得した後であってもその疑問は残り続けました。「自分は本当にその職に就きたいのか」と考えてしまうこともありました。

そんな時に、高校の実習で、関東電保安協会主催の出前授業「電気安全教室」を受けることができ、高校よりレベルの高い授業はもちろん、普段実習しかしていなかった自分たちにとって、実際に働いている方の意見を聞くことができる貴重な機会となりました。さらに自分にとっては、あの疑問の答えを得るきっかけでもありました。電気安全教室で電気の危険性と安全対策について学んだことでこれまでの電気に対する考えは一変しました。高校の授業でも何度も扱い、電気工事士の資格を取っても尚、自分は電気というものについてこれほど無知だったのかと思い知らされました。これまで何度も「電気は大変危険なものであり、安全対策を怠ってはいけません」と、実習のたびに言われていました。しかし、目に見えない、音も聞こえない、スイッチ一つでいつでも使えるというのをいいことに自分はいつしか電気を「安全でとても便利なもの」として認識してしまっていたのです。しかし、この教室で電気の危険性について学び、電気とは扱いを間違えると大事故につながるものであり、事故を防ぐために入念な安全対策が必要なことも知りました。スイッチ一つで電灯が点き、冷暖房が使える。そんな「あたりまえ」を「あたりまえ」にするため働く姿に自分はとても強い憧れを抱きました。電気技術者は社会という巨大な時計を動かす歯車の一つです。あまり目立たない、しかしほかの誰よりも重要な仕事です。そんな仕事をこなす技術者の方々を見ることで、自分の中の答えを知ることができました。「自分はなぜ電気技術者になりたいのか」今なら胸を張ってこの問いに答えることができます。「自分は、人々の生活を根底から支える技術者に憧れていたのだ」と。単純ですがこれが自分の中の答えでした。

現在電気は工業、農業、医療に至るまで私たちの生活にはなくてはならないものです。さらに今後技術の進歩とともに様々な場所で電気が必要な世の中になると思います。しかしそこに、みんなが電気を安全に使えるように努力し、今の社会を作り上げてきた人たちがいることを忘れてはいけません。今はまだ先輩方の背中を追いかけることしかできません。しかしいつか立派な電気技術者になり、この国の今と未来を支える仕事をしたいです。